

2015(仏暦2558)年夏(7月)号(第95号)

# 万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行  
浄土真宗本願寺派  
万行寺 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460



## ■住職法話

明日ありと思う心の仇 あだざくら 桜

## ■～結ぶ絆から、広がるご縁へ～ ごえん

## ■本願寺の本

本願寺新報 お盆特集号

## ■お知らせ、編集後記

## Photo

猛暑が続いています。滝を見て少しは涼んで下さい。(軽井沢・白糸の滝)

温暖化がさらに進んでいるのが原因なのか、異常気象は、私たちの生活にも影響を及ぼしているようです。

# 住職 法話

## 明日ありと思う心の仇桜 あだざくら

お盆の時期は、お寺、お墓へと多くの方がお参りをされます。そこで、お寺では、境内のお掃除に追われる時期でもあります。特に、草刈りは欠かせないものです。お天気に左右されることなく、草だけは何をしなくても元気に生きてきます。刈った先からしばらくするとまた生えてきて、私も草刈りに追われています。

とになりました。通称、「ビバー」と呼ばれる草刈り機を使って、参道、墓地、畑から山へと至る所に生えている草を刈るわけですが、最初は慣れない作業に戸惑うことばかりでした。

と、ところを大事にせよ」というのが大まかな意味だそうです。よく掛け軸の書などで拝見しますが、不勉強で意味を初めて知り、ハッと親鸞さまにも通ずる所を感じました。

それは、親鸞さまは、九歳で得度をされ仏門に入られましたが、夜だったため明日に得度が延ばされそうになった時に、有名な歌を詠まれました。

ところで、私は先月から、普段、空いた時間に、近くの臨済宗のお寺さんへ、主に草刈りのお手伝いに行かせて頂いています。裏に山もあるほど境内地が広いので、境内地整備の仕事をさせて頂くこ

とになりました。通称、「ビバー」と呼ばれる草刈り機を使って、参道、墓地、畑から山へと至る所に生えている草を刈るわけですが、最初は慣れない作業に戸惑うことばかりでした。

それは、親鸞さまは、九歳で得度をされ仏門に入られましたが、夜だったため明日に得度が延ばされそうになった時に、有名な歌を詠まれました。

皆さんも、「明日やれば…」と思って先延ばしにしてしまつて、物事のタイミングを逃してしまつた経験が一度はあると思います。障りがなく穏やかに過ごす日々ではなく、この一日、一瞬は二度と来ないから、かけがえのない一時であると実感するところに、まさに日々是れ好日となるのでしよう。

と、ところを大事にせよ」というのが大まかな意味だそうです。よく掛け軸の書などで拝見しますが、不勉強で意味を初めて知り、ハッと親鸞さまにも通ずる所を感じました。

それは、親鸞さまは、九歳で得度をされ仏門に入られましたが、夜だったため明日に得度が延ばされそうになった時に、有名な歌を詠まれました。

皆さんも、「明日やれば…」と思って先延ばしにしてしまつて、物事のタイミングを逃してしまつた経験が一度はあると思います。障りがなく穏やかに過ごす日々ではなく、この一日、一瞬は二度と来ないから、かけがえのない一時であると実感するところに、まさに日々是れ好日となるのでしよう。

皆さんも、「明日やれば…」と思って先延ばしにしてしまつて、物事のタイミングを逃してしまつた経験が一度はあると思います。障りがなく穏やかに過ごす日々ではなく、この一日、一瞬は二度と来ないから、かけがえのない一時であると実感するところに、まさに日々是れ好日となるのでしよう。



く結ぶ絆から、  
広がる「縁へ」

# いっせん

⑦わたしと仏さまの  
ことです。

く切れることのない「縁」

毎年お正月になると、年賀状を送ります。しかし、せっかく送った年賀状が、「宛名不明」で返ってくることがあります。どこかへ引越したのか、お亡くなりになったのか、原因はわかりませんが、返ってきた年賀状を見て、寂しい気持ちになった経験を持つ方も、多いのではないのでしょうか。大切な「縁」であっても、ふとしたことで失

われてしまうのが、私たちが生きている人間世界の関係です。

それは、親子や夫婦といったかけがえのない大切な縁であっても、変わることはありません。なぜなら、「死別」を免れることはできないからです。『仏説無量寿経』には、独りで生まれ、独りで死んでいくとあります。人間は、生まれるときも死ぬときも独りであるというこの言葉には、生死のもたらす別離の悲しみが示されています。

親鸞聖人は「人間の八つの苦しみの中で、愛別離苦が、もっとも痛切なものである」と仰ったと『口伝鈔』に伝えられています。八つの苦しみの中には、自分が老いること、死んでいくことの苦しみも含まれますが、そうした苦しみ

よりも、慈しみ合っているもの同士が別れていくことほど、悲しく切ないものはないと仰っているのです。この言葉からも、大切な縁が切れてしまうことの痛みの大きさが、あらためて実感されます。

そのような私たちに対して、阿弥陀さまの救いは、決して断ち切れることがない縁として届いています。はるか昔から、そして今も、未来も、「摂取不捨」（救い取って決して捨てない）として、すべてのいのちあるものの元に、

阿弥陀さまの光は届いています。この誰もがつながっている、途切れることのない阿弥陀さまからの「縁をいただいていくことを」、「信心」といいます。そして、信心をいただいた私たちは、お浄土に生まれ、仏となって、「縁

のあった人々との間に、永遠のつながりを結ぶことができます。

「編集・発行／浄土真宗本願寺派総合研究所 重点プロジェクト推進室」より



## ～本願寺の本～

### 本願寺新報 お盆特集号

平成27年8月1日号

発刊以来100余年の歴史を持つ「本願寺新報」は門信徒の方々の新聞です。

宗門の動き、社会問題、やさしい法話、童話のページなど新しい情報が紙面いっぱい。

1面と最終面はカラー写真を豊富に使ったカラフルな紙面づくりを行っています。

一家に一紙、ご購入をお勧めします。



夏の大特集「伝えたい合掌のころ」／終戦70年-子どもたちに伝えたい戦争体験-／伝灯奉告法要特集／新報版寺子屋／お盆にまつわる仏事作法

[本願寺出版社ホームページより]

## 「万行寺門信徒会」会員の皆様へ

「万行寺門信徒会」より、本年度年会費のお願いを6月上旬にご案内致しました。納めていただき、厚く御礼を申し上げます。浄財として大切に使用させていただきます。なお、本年度よりご入会の方には、本号から寺報などを年4回配布させていただきます。

また、納入期限を過ぎましても年度内（来年3月）まで受け付けていますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

### 編集後記

『住職法話』で、親鸞さまの得度についてふれましたが、私は得度して今年で三十年になります。◆そして、あの最悪の飛行機事故となった、日航機墜落事故が三十年前だそうです。お盆の帰省客を多く乗せたジャンボ機が御巢鷹山に墜落したというニュースは、当時、食い入るように見ていた記憶があります。◆もうあれから…、という記憶がよみがえると共に、僧侶としてやってきた年月のことも振り返る機会を頂きました。

◆仏教詩人の中川静村の「ふりかえる」という詩を読み返しています。

